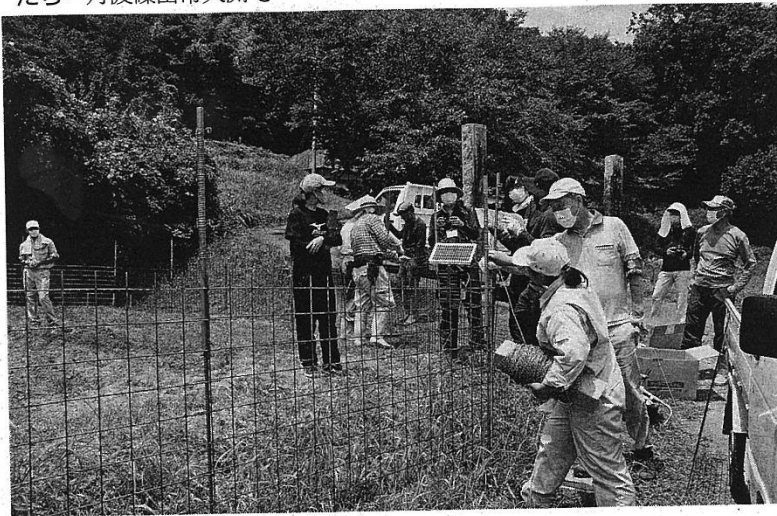


篠山ロータリークラブの獣害対策活動でサル用電気柵を設置する関係者たち=丹波篠山市大洲で



## 「助けてもらい、大助かり」

鳥獣害は農山村の最も深刻な課題で、営農意欲の減退や耕作放棄地の増加など、農業被害額の数字以上に深刻な影響を与えているとの認識の上で、獣害対策活動を広くPRし、住民や関係者向けのフォーラムを開く。

NPO法人・里地里山問題研究所(味間新)と、同法人が畑地区で実施している獣害対策実践塾を支援し、フォーラムまでに、防護柵の設置、獣害対策PR動画・パンフレットの作成、監視カメラの設置、鳥獣日中捕獲実習(12月19日)などを行う。

この日は、同クラブ、同法人のほか、高校生ら約50人が参加し、山際の

# 獣害対策へ支援展開

## 篠山ロータリー サル用電気柵を設置

農家を悩ます獣害問題の解決の糸口を探ろうと、篠山ロータリークラブ(会長が今年度、獣害対策支援による地域の農業支援に取り組み。最初の実践として25日、丹波篠山市大洲の丹波黒大豆のほ場にサル用電気柵を設置した。来年1月10日の「獣がいフォーラム」まで、さまざまな事業を展開する。(足立智和)

約8㍓のほ場を電気柵でもらって大助かり」と喜ぶ。

同クラブの社  
会奉仕委員長(51)は、  
「日本農業遺産の認定を  
受けた丹波篠山市にとっ  
て農業は基幹産業。資金  
援助だけでなく、労働奉  
仕もしてフォーラムにつ  
ながりたい」と話してい  
る。

丹波新聞

2021年7月29日